

令和7年度第1回 岡崎市美術博物館協議会会議録

1 開催日時及び場所

令和7年7月18日（金）13:58~15:35

岡崎市美術博物館 1階会議室

2 出席委員（定数10名 1名欠席）

会 長	井上 瞳	（学識経験）		
副 会 長	野田 光宏	（社会教育・家庭教育）	成田 隆行	（学校教育）
	長坂 博子	（学校教育）	山本 秀樹	（社会教育）
	太田 公典	（社会教育）	荒井 信貴	（学識経験）
	三輪 哲也	（市民公募）	広瀬 八重子	（市民公募）

（欠席委員は、林 羊歯代（学識経験）1名）

3 館長及び説明のため出席した事務局職員（8名）

特任館長	榎原 悟	美術博物館長	大澤 一実
美術博物館副館長	原林 基昭	美術博物館管理係係長	鈴木 由香里
地域文化広場館長	亀井 実	美術館長	倉橋 浩二

4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

5 会議の内容

次第1 報告事項

（1）令和6年度 展覧会開催結果について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

議 長＝毎回確認しているかもしれないが、支出の中に人件費等を含んでいるのが美術博物館で、子ども美術博物館は人件費が含まれていない。

美術博物館の支出は大きく見え、子ども美術博物館は支出が少なく回収率が高いが、もともとの基準が少し違うとのこと。

委員A＝「中山みどりフェルトアート展」は2回目か。

事務局＝その通り。

委員A＝今回も前回も非常によくて、見に行った。ワークショップやギャラリートークも人気があり、作家はなかなか来られないのかもしれないが、同じようにフェルトの作品を作られている方や教室の名前が出ていたので、ワークショップは別の方でもいいので回数を増やせるといいと思った。

あれだけ多くの入館者があるなら、もう少し期間が長くてもいいと思った。

事務局＝ワークショップも募集をかけるとあっという間に枠が埋まってしまう状況。

委員のおっしゃる通りニーズはある。作家の方に来ていただくには、これ以上回数を増やすのは難しいので、お弟子さんが来てくださるのなら、日数を増やす検討をしたい。

委員A＝体験してみたい方は、子どもよりも大人なのかもと思った。

委員B＝美術博物館は、暑さの影響で夏の入りが悪かったと説明があったが、地域文化広場の「あそべる！昆虫ワールド」の方は、暑さの中でも達成率が高かったということで、内容面などこだわったところはあったか。

事務局＝地域文化広場のメインのターゲットはお子様で、夏休みで集中する時期でもある。昆虫は子どもたちにとっても人気のコンテンツの一つなので、当館も恐竜展や昆虫展を夏に開催しているが、多くの来場者で駐車場が困ってしまう時もある。アミューズメント的な感覚で来られている方が多いと思う。

委員C＝「わくわく鉄道博物展」は親子三代で楽しめる鉄板の展示なので、プラレールの扱いをどうするかだと思う。プラレールをメインに来館する方もいて、お父さんが朝から走っている姿なども見られたので、単独でも使えるネタだなと思う。

また「中山みどりフェルトアート展」について、見ている人が展示に対して「うちの子は・・・」とみていたので、たくさんの方が興味を持って見に来られる展覧会だなと実感した。

議 長＝美術博物館については何かありませんか。

委員D＝展示を見せていただいて、正直に言うともう少しポピュラーな作家、作品展があってもいいと思った。岡崎以外を見ると、そういう展覧会を開催している地方美術館が結構ある。そういう展覧会が岡崎に来ないのは予算の加減かと思うが、何かそういう展覧会を引っ張ってこられるといいと思った。

また、美術博物館は場所が交通の便が良くない。ほかの館だと列車を降りてすぐのようなところもある。改善策はないかもしれないが、そういう状況が変わってくるとよい。

議 長＝ポピュラーなものというとどんなものか。

委員D＝例えば、西洋近代美術とか、子どもも大人も知っている作家が来てくれるとよい。現代美術の展覧会も子どもを連れてくると案外興味を持つ。以前、勤めていた小学校の子どもたちを美術博物館に連れてきて、アルプを見せた時に感激していた。子どもの感性としてはこういうものは難しくはなくて、機会があってもいいと

思う。いろいろ検討いただいているとは思いますが、何か手だてがほしい。

事務局＝西洋美術というと、現在隣の市で開催している展覧会をイメージされたかと思うが、かなり予算がかかる。コロナ以降は海外からの借用などのハードルが高く、いろいろな制約があり、西洋美術の展覧会を開催するのは難しい状況である。代わりに今いる学芸員たちで、現代美術を広めたい、収蔵資料を活用したいという視点で「ひらいて、むすんで」展を開催した。長いスパンの中で、委員の発言された誰でも知っているような作品、今回生徒市議会でも教科書に載っているようなものを展示してほしいという声もあり、展覧会の中では展示しているが、教科書に載っているという切り口では紹介していないので、いろんな紹介の仕方子どもたちを引き付けられるような方法を検討していきたい。

委員E＝1年あれば全体のバランスを見て、そういった展覧会を入れ込んでいくこともできると思うが、令和6年度は半年しかなかったのでこういう状況になってしまったと思う。逆に1年あるのならばそういったバランスを考えるのも大事だと思う。

議長＝今話が出たような、教科書に載っているようなもの、というのは今も昔も変わらず、おそらく2、30年前も同じようなことを言われていたのではないかと思う。やはり取っ掛かりとしては、あるといい。

事務局＝昨年度開催した「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」では、6年生の教科書に載っているペリーの来航図なども展示しており、ギャラリートークなどでは教科書に掲載されていることを学芸員が解説していたが、図録やキャプションには教科書に載っているという記載はない。今後は子ども目線で分かりやすいキャプションも検討していきたい。

委員C＝「ミッケ！のせかいであそぼう展」につづいて常設展コーナーがあるが、結構ビッグネームの作家の展示があり、僕自身は結構楽しんで拝見した。そういうのを生かしていくというのは間違いなくあるだろうし、今回「ミッケ！のせかいであそぼう展」を見に来た方たちに、あのビッグネームの方たちの初期の作品がヒットするのか、疲れているお父さんお母さんが、お子さんを連れてあの前を通過していく方が多かった。飾ってあるものは、かなり素晴らしいものが多かった。すでに持っているものを生かしていく方向があるというのをあらためて感じた。

委員D＝私もすごくよかったと思うが、あれを見てあの作家の代表作を、思い浮かべられる人がどれくらいいるのかなと思った。本当によく知られている方は別として、横尾忠則といわれても分からない人もいる。代表作ではないので、知っていれば面白い展示になっている。あれは美術博物館で、何かの時にうまく使ってもらえるといいと思った。安藤昇と森慎吾の展示もとてもいい作品だったが、置いてあるだけだったので、何もわからずちょっと稚拙な感じの自動車があるな、粘土でよくできているなと思って通り過ぎるだけで終わってしまう人もいると思う。いわゆる創作としての意味が、もう少し分かるようにしてほしい。子ども美術博物館にはたくさん親子が来るので、来た人達が、美術博物館にも行くようなアイデアがあればいいと思う。「ひらいて、むすんで」展には障がいのある方の作品も展示されていた

が、障がいを持っている方の作品を、美術や芸術として評価する展覧会があってもいいと思う。子ども美術博物館の展示をみて工夫がほしいと思った。

委員F＝「あそべる！昆虫ワールド」の子どもの入場者数がすごく多く、美術博物館は小中学生が少ない。アミューズメント的なのという話があったが、現地で知人に会った際に聞いた話では、今は暑すぎて外で遊ばせられないということで、作品も楽しめず、造形教室もあるしここに来ると半日あつという間に過ごせるので、ありがたいという話を何人かから聞いた。同時期の美術博物館の「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」はやっぱ小中学生は多くないということだが、行った人に話を聞くと、体験型ですごくよかったという話も聞いた。こちらも夏休みで小中学生が行けてよかったのかなと思った。今は、暑すぎても雨でも外で遊べないので、行ける場所を求めている小中学生は多いと思うし、親にとってもありがたい。子どもたちがどうしたら行くか、さっきも話題に出た教科書に載っている作品とかもいい。隣の市は、教員が無料で見られるパス的なものがあるって、結構利用されているようだ。教員が研修などで行ってよかったですと、授業などで紹介したりする。そういうことがあると子どもたちの興味も変わってくるのかなと、教員の研修が絡められるシステムがあるといい。

議長＝貴重な情報ありがとうございます。他で似たようなことをやっているところはあるのか。

委員F＝愛知県もやっている。学芸員の話も聞けて、見せていただける。

議長＝事務局はご意見を参考に検討ください。

委員A＝シルバーデーとかはあるのか。

事務局＝ありません。

委員A＝東京現代美術館はシルバーデーがあった。内容は岡崎乾二郎で、高齢の方が結構いた。美術博物館も何か欲しい。皆車でどこへでも行くから、不便なせいだけではないだろう。

議長＝今までにない新しい取組ができる範囲で、取り入れていただけたらと思う。毎回話題に出るが、協議会としても議事に残すべきなので、交通の便が悪いところを改善できるとよい。

(2) 令和7年度 展覧会開催状況について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（会期を終えた地域文化広場の展覧会の入場者数、各種企画内容、今後予定している展覧会等の内容を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員C＝「ミッケ！のせかいであそぼう展」が大盛況だったというのはこの数字が示す通りだが、私が行った時に感じたのが、駐車場に止まっている車のナンバーが半分ぐらい市外ナンバーで、特に名古屋ナンバーが多い。市外の人があるかどうかで結果が変わってくる。特に今回は今までで一番市外ナンバー、特に名古屋が多かつ

たと感じた。スペースが限られているのはわかるが、大きな展示が多く、探してみようの御題が下にあって、読むためにしゃがみ込む親子連れで人の滞留が発生していた。楽しいものだったので、スペース的に苦しいのが残念だった。

議長＝1日平均 670 人の来館者はすごい。

事務局＝委員のご意見のとおり市外の方がとても多かった。東海地方初展示というのと、子どもに人気の作品だが、20代、30代の方も多く来館し、2つの世代に人気があったように思う。普段と客層が違い、土日の客足はお昼にピークがあってだんだん下がっていくのが通常だが、午前と午後で2回ピークがあり、午後になると駐車場の様子が心配な状況が続いていた。スペースの問題は館のハードの問題なのでどうしようもないが、もっとゆったりみられるといいと思った。

委員G＝入場者数の目標に対してのパーセンテージだが、本来 100%の混み具合であれば 100%楽しめるはずの展示だったのに、200%来ていたから十分に楽しめない、どこかで我慢してもらっているというのは気にしないとイケない。人が多いとどうしても待ち時間ができる。ずっと待っていると子どもがよそへ行ってしまう。もう少し期間を延ばすとか、展示を1点減らしてもいいのかもしれない。それでも十分楽しめる。そういった工夫があってもいい。目標数を決めるときに一番楽しんでいただけの状況を作っていくことが重要かと思う。

事務局＝本来であれば目標の人数が適切であったが、非常に多くの方にご来場いただけた。事前に把握できれば改善できる部分もあったかもしれないが、このような状況になるとを予測できなかった。

委員G＝うれしい誤算ですね。

議長＝この目標を立てるときにもこれまでの入場者数を鑑みて立てられているのか。

事務局＝経験のある職員が過去の傾向をみて予測するが、「ミッケ！のせかいであそぼう展」は初めての展示だったこと、我々の見立てが正しければ2つの世代にヒットしたことから予測できなかった。今後の参考にしたい。

議長＝今開催中の「ニンジャ～修行の館～」は1月経っていないのに 11,000 人の来館があった。夏休みはかなり来館がありそうなので、今のうちに混雑時の対策を考えたほうがよい。

(3) 令和6年度新収蔵資料について

議長＝説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度に購入又は寄附・寄託を受けた作品・資料について説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

博物資料の購入と寄附に「大磯義雄文庫（追加）」があるが、分けた理由は？

事務局＝所有者の希望による。資料は一括で受け入れしている。前回（平成27年度）受入れ時と同じである。

議長＝美術品の寄託（手塚氏）のものは将来的にどうするのか。

事務局＝作家からは購入の希望があったが、予算などいろいろな問題があり購入には

至っていない。同じ作家の別の作品の購入は検討している。

(4) 教育普及事業について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度の教育普及事業について、資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員C＝令和7年度の計画を通期で見られるものはありますか。

市政だよりを見ると個々にはあるのですが。

事務局＝今のところない。アウトリーチ事業は、年度中に作家とスケジュール調整したため、教育普事業はスケジュールが前年度に確定していないものがあり、通期でお知らせできるのは、展覧会計画のみとなる。

委員C＝私たちの年代は、4月～6月くらいに今から何しようと考え始めるので通期でわかると申込みができていいと思った。

事務局＝古文書講座は、毎年3月1日号の市政だよりに掲載しているが、事業によっては日程がきまり次第、市政だよりに載せている。また、「こども学芸員」に関しては定員が6名と少ないこともあり学校を通じての募集をやめて、SNSと子ども美術博物館や関連した施設に手作りのチラシを置いた。市政だよりに掲載していないがそれなりの応募はある。今年度は「三河武士のやかた家康館」で8月の3連休に開催する。本日が締切日だが、応募が10名ほどあり抽選となる。年度当初に日程が組めるよう、委員の意見も参考にしたい。

委員H＝多くの方が参加できるといいと思う。できる範囲でお願いしたい。

事務局＝昨年は市外在住のお子さんが、子ども美術博物館でチラシ見て参加してくれました。参加は半日ずつ3日間で、送迎が必要になる。皆さん楽しんでいただけて将来学芸員を目指してくれたらいいと思う。状況にもよるが検討したい。

議 長＝参加されるお子さんにはとても有意義だが、この活動はかなり学芸員の時間が割かれてしまう事業だと思う。

(5) 美術館展示利用実績について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和6年度の美術館入場者数、展示室の稼働率等について、資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員C＝情報提供ですが、周辺の市町では展示会場が少なく、一般市民の展示のニーズがとても高いです。

事務局＝情報ありがとうございます。

議 長＝使用料の収入はどれくらいあるのか。

事務局＝300万円弱です。

次第4 議事

令和8年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和8年度開催予定の展覧会について、事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和8年度開催の展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員E＝樋口先生の展覧会は前回いつでしたか？

事務局＝令和5年度です。

委員E＝「樋口一成 木のおもちゃ展」、「はしもとみお展」「わくわく鉄道博物展」は3、4年ごとに開催されるのか。

事務局＝令和8年度についてはそうなる。「ピラミッドサイエンス展」は新しい企画です。

議長＝ご意見がなければお諮りします。令和8年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

（全員承認）

議長＝令和8年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、ただいまの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「3 その他」について、何かありますか。

事務局＝特にありません。

閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重なご意見を頂戴し、また、令和8年度の展覧会についても承認をいただき、ありがとうございます。展覧会を取り巻く環境は例年厳しくなっております。やっぱり自分のところにある収蔵品をどう使うか今後ますます知恵を絞っていく時代になっている。先ほど子ども美術博物館の常設展でご意見をいただきましたが、美術博物館には常設展示がなく、子ども美術博物館は1部屋しかない。嘆いていてもしょうがないので、あるものを市民の皆様にお見せしていこうと、学芸員たちは切磋琢磨し企画を立てています。美術博物館の令和8年度の最初の展覧会は「ものを覗く窓、それから」は30年かけて集めたものをどう見てもらおうか。という展覧会になると思います。どういう風に魅せるか学芸員の力量にかかってきます。期待してください。今後、令和8年度だけでなく、どう有効活用していくかで、皆様方を感動させ、資料の価値が上がる展覧会を考えていこうと思います。皆様のご意見を賜り、よい展覧会を開催していきたいと思うので、今後ともよろしくお願いします。長時間ありがとうございました。

事務局＝以上で令和7年度第1回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。次回は2月に令和7年度の第2回会議を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

—以上—